

## セミナー2

### 認知症の予防とこれからの支援

講師：坪内 善仁 氏

(奈良学園大学 保健医療学部)

2019年、国は「予防」と「共生」を両輪とした認知症の地域施策推進を目指している。これまでも、認知症サポーターの養成や「認知症が特別な病気ではないこと」、「早期発見・早期治療と早期相談の重要性」など地域住民への啓発により、認知症への理解、認知症のある人への支援は徐々に拡大している。奈良県作業療法士会でも、県内の各市町村や認知症の人と家族の会との協働により、啓発や予防事業を実践しており、今後もさらに支援の輪を広げていく必要がある。

一方で、近年は人工知能(AI)やInternet of Things(IoT)の開発・発展により、認知症の人と家族の支援において研究や実践が開始されている。例えば、イスラエルのBioEye社は、日常で使用するスマートフォンのカメラで瞳孔の拡張やまばたき、眼球の断続性運動など微細な変化を検知し、AIを用いて脳機能との関連を分析することで、認知機能低下を早期に発見する仕組みを開発している。また、米国では日常生活場面で視線や音声をAIによって分析し、認知症発症や進行の早期発見を目指した研究が進められている。これらの技術は、家族や医療機関との連携により、当事者の不安や初診時の負担感軽減が期待されている。一方で、国内でもAIを用いた遠隔型見守りロボットや傾聴・会話ロボットなどの開発が進み、当事者の気分や趣味・嗜好に応じた会話が長時間可能となることで、独居高齢者の見守りや認知症予防、安心・安全な生活の維持に効果が期待されている。

これらの技術は、今も進化の過程にあり、近い将来、暮らしに不可欠な存在になると考えられる。我々作業療法士は、認知症になっても当事者とその家族が住み慣れた地域で安心・安全かつ自分らしく暮らし、大切な作業を出来るだけ継続していけるように、技術の発展を知り、必要な技術を適切に活用していく必要があると考えている。

今回のランチョンセミナーでは、奈良県作業療法士会の認知症予防への取り組みを紹介するとともに、AIやIoTを活かした認知症研究の動向を供覧し、これからの支援について一緒に考えたい。

## 講師略歴

---

2006 年 星城大学リハビリテーション学部 卒業

同年 秋津鴻池病院 入職

2016 年 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科 博士前期課程修了

同年 博士後期課程入学～ 在学中

2019 年 奈良学園大学保健医療学部 リハビリテーション学科 入職

～ 現在に至る

研究テーマ:

認知症予防,重度認知症のひとの作業療法,高齢者のエンパワメント

論文:

・地域在住女性高齢者の献立立案から取り組む集団調理プログラムの効果.坪内善仁, 安田圭志, 山中美里, 東條秀則, 内藤泰男

・身体合併症を有す重度認知症患者の死亡転帰に関連する入院時  
情報の特徴:作業療法評価を含めた探索的調査坪内 善仁, 宝田 イ  
オリ, 石橋 雄介, 大西 和弘, 東條 秀則, 洪 基朝

学会:

・回復期リハビリテーション病棟から自宅退院した大腿骨近位部骨折患者の特徴:認知症合併の有無に着目して.坪内善仁, 宝田イオリ, 木村咲紀, 大西和弘, 東條秀則.第 53 回日本作業療法学会 2019 年 9 月 7 日

・せん妄再発への不安軽減により自宅退院を実現した 1 事例:認知症高齢者のエンパワメントを目指した取り組み.坪内善仁.第 20 回日本認知症ケア学会大会 2019 年 5 月 25 日

など